

04 人工林伐採時に少量の広葉樹を 保持して鳥類を効率的に保全する



WebA°-ジ°

技術のポイント

木材を生産するための森林でも生物多様性を保全すべきか、生産と保全は別個の森林で実施すべきかが議論されています。私たちは大規模な野外実験を行い、トドマツ人工林伐採時に少量の広葉樹を残す(保持する)ことが多くの鳥類の保全につながることを示しました。具体的には、haあたり20-30本の広葉樹を伐らずに残すことによって、樹木を全て伐る皆伐よりも森林性鳥類の個体数を多く維持できることが期待されました。

連携・橋渡しの方向

針葉樹人工林内に混生する広葉樹の生物多様性保全上の役割が広く認識され、施業ガイドラインや森林認証制度に広葉樹の保持が組み込まれることで、林業分野で生物多様性の保全が進展すると見込まれます。

詳細情報

- ・プレスリリース：<https://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2023/20230213/>
- ・本研究は、保持林業の実証実験プロジェクトの成果の一部で、道総研林業試験場、アメリカ地質研究所との共同研究です。
(<https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/refresh/index.html>)
- ・論文等：Ecological Applications 33(3):e2802、Forest Ecology and Management 562:121929、柿澤宏昭ほか、2018、保持林業、築地書館

担当者

四国支所・山浦悠一



図1 トドマツ人工林を主伐するにあたり、広葉樹がhaあたり50本残された中量保持区

中央に残されたシナノキの大径木では、キバシリが営巢しました。



図2 保持された広葉樹を利用するキビタキ

日本の天然林で繁殖する代表的な鳥類であるキビタキも、伐採地に残された広葉樹を利用していました。

■ 謝辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金「JP25252030、JP18H04154」、三井物産環境基金「R12-G2-225、R15-0025」により実施しました。

森林産業実用化カタログ2025



お問合せ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
社会実装推進・知財戦略室

E-mail: sangaku@ffpri.affrc.go.jp

URL: <https://www.ffpri.affrc.go.jp/sangakukan/index.html>